

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月8日
【四半期会計期間】	第72期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	不二ラテックス株式会社
【英訳名】	FUJI LATEX CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 伊藤 研二
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田錦町三丁目19番地1
【電話番号】	03(3293)5681（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 財務部長 金原 辰弥
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田錦町三丁目19番地1
【電話番号】	03(3293)5686
【事務連絡者氏名】	財務部課長 岡本 和大
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第1四半期 連結累計期間	第72期 第1四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	2,053,615	1,912,425	8,337,987
経常利益 (千円)	159,904	20,749	527,421
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	116,372	16,708	397,829
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	131,330	13,096	372,425
純資産額 (千円)	2,999,086	3,189,602	3,240,143
総資産額 (千円)	11,489,903	13,796,500	13,567,117
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	91.65	13.16	313.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	26.1	23.1	23.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、足元の企業収益の悪化を受けて製造業を中心に景況感が下押しされており、経済成長率の力強さに欠く状況となっています。世界経済は全体として緩やかに減速の見通しであり、米中貿易摩擦の長期化、米国や欧州各国の政策動向、中国の景気減速など依然として先行き不透明な状況による経済の下振れリスクが高まっています。

かかる状況は、中核事業である医療機器事業および精密機器事業の市場環境に影響し、当第1四半期連結累計期間の売上高は、19億1千2百万円と前年同四半期に比べ1億4千1百万円（6.9%）の減少となりました。

利益面では、営業利益は3千9百万円と前年同四半期に比べ1億2千5百万円（75.8%）の減益、経常利益は2千万円と前年同四半期に比べ1億3千9百万円（87.0%）の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1千6百万円と前年同四半期に比べ9千9百万円（85.6%）の減益となりました。

各セグメントの業績は次に示すとおりであります。なお、セグメント損益は、営業利益または営業損失に基づいております。

医療機器事業

主力のコンドームは、国内市場においては、商品の認知度向上を狙いにWeb広告や販促企画を展開し、大型小売店や大手ネット販売を中心とした販路開拓に継続的に注力しました。消費の減少傾向、価格の二極化、新素材製品のシェア上昇により厳しい状況が続くものの、新素材コンドームSKYNの定番化、ネット販売の伸長により売上は拡大しました。また海外市場においては、特に中国市場における高価格帯製品に対する需要後退を受け、販売が減少しました。

超音波診断装置等のプローブカバー（感染予防製品）、内視鏡用医療バルーンを中心としたメディカル製品については、アレルギーフリー新素材製品に対するニーズが引き続き堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は6億2千1百万円と前年同四半期に比べ3千6百万円（5.5%）の減少となりました。

セグメント損益は、売上減少に加えて競争激化に伴う利鞘の縮小、栃木千塚工場の竣工に伴う償却負担増加もあり2千9百万円の損失（前年同四半期は1千万円の利益）となりました。

精密機器事業

主力のショックアブソーバ及びロータリーダンパーは総体的にみて堅調に推移しました。国内市場では主要市場として位置付けている住宅設備、家電、複合機等の各分野において堅調な受注が続いた一方で、半導体製造設備等の一般産業用生産設備、工作機械、建機分野等における受注は伸び悩みました。海外市場では一部取引先に対する出荷調整等の影響もあり、販売計画を下回りました。また製造原価に占める労務費の増加等が利益の圧迫要因となりました。

この結果、売上高は、11億4千4百万円と前年同四半期と比べ9千4百万円（7.6%）の減少となりました。

セグメント利益は、1億8千5百万円と前年同四半期と比べ7千8百万円（29.8%）の減益となりました。

SP事業

主力のゴム風船が主体となる販促用品市場は安定的な受注が見込めるものの、商材の逼迫などが影響し、販売計画を下回りました。この結果、売上高は1億2百万円と前年同四半期に比べ2千2百万円（17.7%）の減少となりました。

セグメント損益は、0百万円の損失（前年同四半期は6百万円の利益）となりました。

その他

食容器など夏商材の受注が順調に推移し、売上高は4千3百万円と前年同四半期に比べ1千1百万円（36.6%）の増加となりました。

セグメント利益は、7百万円と前年同四半期と比べ1百万円（18.4%）の減益となりました。

当第1四半期連結会計期間の総資産は、137億9千6百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億2千9百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の9千9百万円、商品及び製品の1億1千4百万円の増加などです。

負債総額は106億6百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億7千9百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の2億7千9百万円の増加などです。

純資産総額は31億8千9百万円となり、前連結会計年度末と比べ5千万円減少しました。主な要因は、利益剰余金の4千6百万円の減少などです。この結果、自己資本比率は23.1%となりました。

(2) 事実上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、6千4百万円です。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,000,000
計	3,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,286,199	1,286,199	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	1,286,199	1,286,199	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	-	1,286,199	-	643,099	-	248,362

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 16,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,247,800	12,478	-
単元未満株式	普通株式 21,899	-	-
発行済株式総数	1,286,199	-	-
総株主の議決権	-	12,478	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が33株含まれております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 不二ラテックス株式会社	東京都千代田区神田錦町 3-19-1	16,500	-	16,500	1.29
計	-	16,500	-	16,500	1.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,898,545	1,997,666
受取手形及び売掛金	1,922,573	1,881,741
電子記録債権	1,391,195	1,417,383
商品及び製品	575,922	690,134
仕掛品	792,658	877,896
原材料及び貯蔵品	748,116	748,856
その他	223,328	103,327
貸倒引当金	847	770
流動資産合計	6,551,491	6,716,235
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,883,503	2,918,419
土地	1,848,498	1,848,498
その他(純額)	1,685,455	1,685,278
有形固定資産合計	6,417,457	6,452,195
無形固定資産	81,469	86,902
投資その他の資産		
その他	511,608	536,592
貸倒引当金	2,100	2,100
投資その他の資産合計	509,508	534,492
固定資産合計	7,008,434	7,073,590
繰延資産	7,190	6,674
資産合計	13,567,117	13,796,500
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	289,359	311,387
電子記録債務	1,080,963	1,109,860
短期借入金	2,788,000	3,067,000
1年内返済予定の長期借入金	505,776	533,554
未払法人税等	29,801	44,921
賞与引当金	141,511	247,886
その他の引当金	-	18,698
その他	886,417	725,727
流動負債合計	5,721,829	6,059,034
固定負債		
社債	400,000	400,000
長期借入金	3,244,184	3,193,851
退職給付に係る負債	131,159	121,765
その他	829,800	832,247
固定負債合計	4,605,143	4,547,863
負債合計	10,326,973	10,606,897

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	643,099	643,099
資本剰余金	248,362	248,362
利益剰余金	2,026,555	1,979,781
自己株式	36,109	36,264
株主資本合計	2,881,908	2,834,979
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89,967	81,986
土地再評価差額金	278,760	278,760
為替換算調整勘定	6,065	8,178
退職給付に係る調整累計額	16,558	14,302
その他の包括利益累計額合計	358,234	354,622
純資産合計	3,240,143	3,189,602
負債純資産合計	13,567,117	13,796,500

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	2,053,615	1,912,425
売上原価	1,527,264	1,498,876
売上総利益	526,350	413,549
販売費及び一般管理費	361,327	373,684
営業利益	165,023	39,864
営業外収益		
受取利息	31	37
受取配当金	3,321	3,764
受取賃貸料	1,133	3,399
為替差益	4,408	-
その他	1,850	2,926
営業外収益合計	10,745	10,128
営業外費用		
支払利息	11,444	19,863
賃貸費用	613	899
シンジケートローン手数料	3,194	1,875
その他	612	6,604
営業外費用合計	15,864	29,242
経常利益	159,904	20,749
特別損失		
固定資産除却損	9	335
固定資産売却損	43	-
特別損失合計	52	335
税金等調整前四半期純利益	159,852	20,413
法人税、住民税及び事業税	70,347	38,385
法人税等調整額	26,866	34,680
法人税等合計	43,480	3,705
四半期純利益	116,372	16,708
親会社株主に帰属する四半期純利益	116,372	16,708

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	116,372	16,708
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,326	7,980
為替換算調整勘定	1,497	2,112
退職給付に係る調整額	2,129	2,255
その他の包括利益合計	14,958	3,611
四半期包括利益	131,330	13,096
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	131,330	13,096
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。
なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
受取手形	60,470千円	49,794千円
電子記録債権	55,469 "	53,868 "
電子記録債務	436,268 "	339,869 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	76,639千円	116,987千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月15日 取締役会	普通株式	63,484	50.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月15日 取締役会	普通株式	63,483	50.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	医療機器 事業	精密機器 事業	S P事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	657,795	1,239,266	124,927	2,021,989	31,626	2,053,615	-	2,053,615
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	657,795	1,239,266	124,927	2,021,989	31,626	2,053,615	-	2,053,615
セグメント利益	10,517	264,128	6,087	280,733	8,749	289,482	124,459	165,023

- (注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食容器事業を含んでおります。
2 セグメント利益の調整額 124,459千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	医療機器 事業	精密機器 事業	S P事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	621,712	1,144,759	102,759	1,869,231	43,193	1,912,425	-	1,912,425
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	621,712	1,144,759	102,759	1,869,231	43,193	1,912,425	-	1,912,425
セグメント利益 又は損失()	29,254	185,370	61	156,055	7,143	163,198	123,334	39,864

- (注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食容器事業を含んでおります。
2 セグメント利益又は損失()の調整額 123,334千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	91円65銭	13円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	116,372	16,708
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	116,372	16,708
普通株式の期中平均株式数(株)	1,269,681	1,269,597

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

2019年5月15日開催の取締役会において、2019年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	63,483千円
1株あたりの金額	50円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年6月27日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

不二ラテックス株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員 公認会計士 金井匡志
業務執行社員

指定社員 公認会計士 竹村純也
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている不二ラテックス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、不二ラテックス株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。